

木材加工をベースに機械加工の可能性を拡大し

新しい日本の **Machining JP**
モノづくりを提案する

CORE

新産業メディア
マシニングコア

2012年10月号





東京国際木工機械展 グリーン産業展

グリーン産業展をサブタイトルに 木材の需要拡大を推進する情報を提供

「見つけよう、木工の未来」をテーマに日本木工機械協同組合(下平紘一理事長)が主催、10月18日に開幕した2012東京国際木工機械展／グリーン産業展は10月20日、3日間の会期を終え閉幕した。建具産業・家具産業が出展して加工技術の方向を示したグリーンサーキット展示が最大の話題となったほか、木工機械・刃物・切削工具などの技術情報も広範にわたった。

1953年(昭和28年)の第1回から数えて第39回目、2008年の前回か

ら4年ぶりの開催となった東京国際木工機械展は森林・林業再生プラン等の施策で国産材の使用が大々的に奨励され、(低層)公共建築物等の木造化が義務づけられる中、木材関連業界に吹く強烈な追い風を受けて今回からグリーン産業展をサブタイトルとし、木材の利用を進める機械と情報の展示会との方向を打ち出した。厳しい経済環境もあって出展規模は今ひとつだったが、川上から川下まで森林・木材関連の産業を強力にバックアップし共に新たな需要と

産業を創造していく木材加工機械産業の姿勢を表現できたことは大きな成果だった。その象徴となったのがグリーンサーキット展示で、マンパワーを除けば数少ない国産資源の森林・木材と木材加工の今後について建具産業、家具産業との本格的な対話が始まる最初のマイルストーンとなった。





SCMグループの加工力を一堂に

DKSHジャパン
オートムフェア
in さいたま

11月14日～16日
関東ショールーム

5軸制御の高度生産を実演

イタリア・SCMグループ、ドイツ・ヴァイニツヒグループの木材加工技術を取り扱うDKSHジャパン(株)(ペーター・ケメラー社長)は来る11月14日(水)から16日(金)までの3日間、埼玉県さいたま市緑区東浦和の関東ショールームでオートムフェア2012 in さいたまを開催する。焦点は新世代マシニングセンター・ユニバーサルの5軸制御を活かした複雑な形状の加工実演のほか、無垢材加工でもクロスカットソーによる2×4プレカットの最適化等、木材加工の可能性をさまざまな実演を通して紹介する。

今回紹介するのは14.5kWの水冷式5軸制御軸を搭載し、穴あけ・溝加工をスムーズにこなす、しっかりしたフレーム構造の新世代マシニングセンター・ユニバーサル(Universal) X5H D31、無垢材の研削や木地研磨から突き板や塗面の仕上げ研磨までオールマイティにこなすコンパクトで高性能なサンディングマシン・SANDY A9/S、コントロールシステムにより全ての機



能を直感的に操作でき、場所を取らないコンパクト設計で6mm木縁までの貼り合わせ加工が可能な小型エッジバンダー・オリンピックK130、軸傾斜横切り盤、昇降盤、クロスカットソー、溝付き盤、ランニングソーの仕事が一台で完結するSCM独自の技術開発で生まれた高性能・ロングライフスライドソー・SI400EPノヴァ(NOVA)、投入→位置決め→クロスカット→排出の作業を自動化し、歩留り・生産効率・生産性・安全性を格段に向上させると同時にクロスカット設備の集約化を進める自動クロスカットソー・オブテックs50、ドイツ基準のテクノロジーはそのままに思い切った低価格を実現し

たフル装備のモルダー・ユニマート(Unimat) 318などの機種。

とくにSCMグループのマシニングセンター・ユニバーサルは今年6月に神戸ショールームで開催したアーリーサマーフェア(写真)での注目機種で、5軸制御を活かした複雑な形状の加工実演を予定している。SCMグループの製品はマシニングセンターのほか自動ワイドベルトサンダー、コンパクト縁貼り機、スライドソーなどをラインアップし、切る・貼る・開ける・磨くを網羅するSCMマシンを一堂に紹介する。また、無垢材加工に関してもヴァイニツヒ・ギャング搭載モルダーの削るや自動クロスカットソーの切るなど高精度で最適な加工を実演を通して紹介する。

開場時間は各日とも午前9時から午後6時まで。来場には登録が必要。DKSHウェブサイトからオンラインで申し込める。詳細は電話(フリーダイヤル) 0120-871-875まで。

→www.dksh.jp